

新方領古隅田川について

加藤 幸一

左記は、春日部市内にある「古隅田川排水改良事業」記念碑に書かれている文面である。

古隅田川排水改良事業

古隅田川は、一千有余年の歴史をもち 古くは 角田川と称し古歌 伝説 洪水等多くの古跡があり 武蔵の国と下総の国さかえを蛇行して 古利根川に合流している 近世 明治 大正と水害の度々河川の改修については 住民の悲願であった 大正九年九月下旬の集中豪雨には黒浜村宇伊豆島地先の古隅田川最上流の水門三段樋において上流と下流の農民が滞水の排水について対立し鬭争となり行政訴訟となった 時の管理者豊春村長田中資盛氏は改修の計画をたてて実測にはいり努力はしたが実現を見ずに終った 其の後も年々雨季には滞水があり特に昭和十三年六月 全十六年七月の滞水は関係地域水田の五七、五%は収穫皆無という被害となり甚大な打撃をうけた 昭和十七年時の管理者は改修計画をたてて先ず河口より矢島に至る四千米を全十九年に県営事業で着工 たまたま大東亜戦争のため建設資材の不足を米機空襲とに悩まされたが学生及農家の賦役人夫の動員により工事を続行中二十年八月十五日終戦となった 世情は急変しために工事は中断したが翌二十一年に再開された なお昭和二十二年九月中旬の関東一帯の大洪水には 更に莫大な災害を被り国及県の補助金と関係者の努力により翌二十三年ようやく一期工事を完了した 昭和二十六年道口前山城堀本流付替工事着工 全二十八年上流の山城堀拡幅改良工事当改良区事業にて施行完成す 工事完成の其後は農産物の増収による地域住民生活の向上はみるべきものがあり 今日沿川各地住宅化の基ともなり すばらしい発展の基となった ここに碑をたて先人の偉大なる功績を後世に伝えるとともに協同和親もつて郷土の繁栄を祈念する

主要事項

河口付替 河口より梅田一〇二番地に至る
巾二十二米 長さ三〇〇米堀割
南里堀割 隅田橋下より城殿宮橋に至る
巾二十米より二四米 長さ一三〇〇米
本流付替 矢島合流地より花積台下平野に至る
巾十三米より一五、五米 長さ一六〇〇米
拡幅 古隅田川本流とする
花積台下より幸手県道に至る
巾八米 長さ一五二八米拡幅
一級河川 昭和四十五年五月一日付にて編入す
関係地域面積 一一四五ヘクタール昭和十七年度調
改修総延長 七一〇〇米
総工費 一二〇〇万円
昭和十八年より二十八年に至る排水改良事業費

古隅田川土地改良区建之

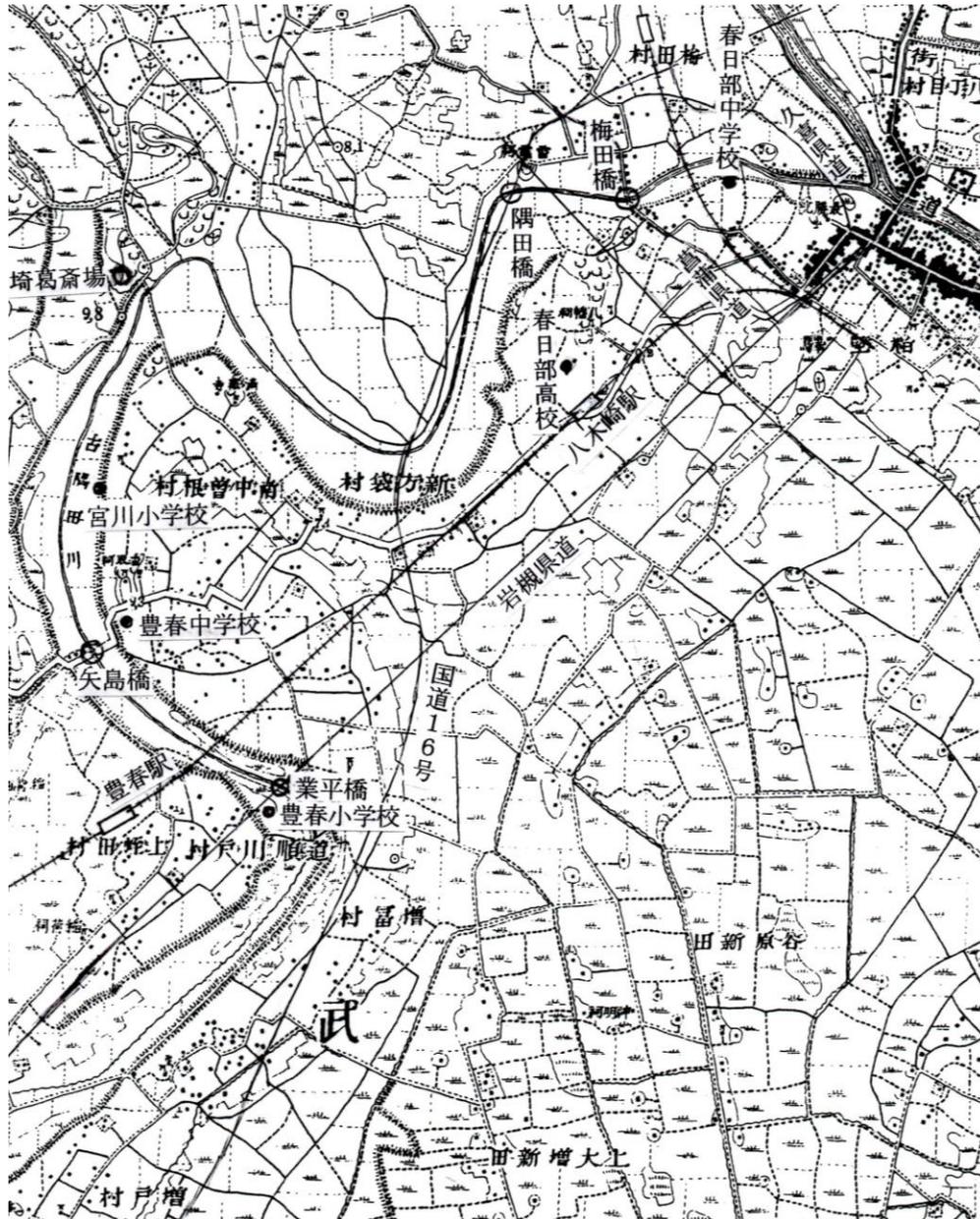
昭和五十一年七月吉日

春日部市内の^{にいがたりよう}新方領「古隅田川排水改良事業」記念碑

(春日部市内牧の埼葛斎場そば)

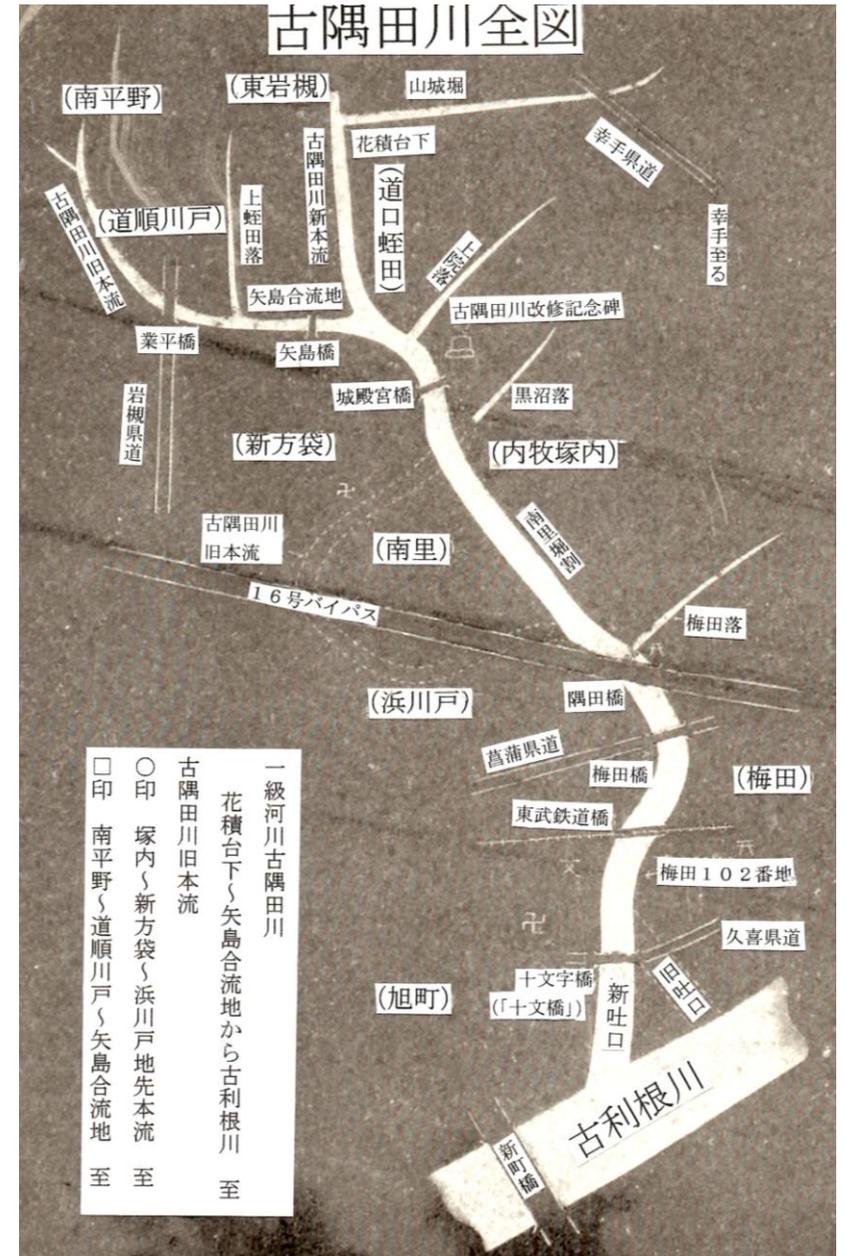
明治の頃の古隅田川

(明治14年測量の迅速測図「岩槻町」を元に
現代の鉄道・道路・橋・学校名などを付け加えて作成した。加藤)



「古隅田川排水改良事業」記念碑に描かれた 春日部市内の古隅田川の地図

(文字部分は、活字に手直した。加藤)



新方領古隅田川の「梅若伝説」（春日部市新方袋の満蔵寺）

うめわかでんせつ うめわかづか

梅若伝説と梅若塚

今からおおよそ千年前、京都の北白川に住んでいた吉田少将惟房卿の一子梅若丸は七歳の時父に死別し、比叡山の稚児となった。十二歳の時、宗門争いの中で身の危険を思い下山したが、その時に人買いの信夫（現在の福島県の一地域）の藤太にだまされて東国へ下った。やがて、この地まで来た時、重病になり、藤太の足手まといとなったため隅田川に投げ込まれてしまった。幸いに柳の枝に衣がからみ、里人に助けられて手厚い介抱を受けたが、我身の素姓を語り

尋ね来て 問わば答えよ 都鳥

隅田川原の 露と消えぬと

という歌を遺して息絶えてしまった。時に天延二年（九七四）三月十五日であった。里人は、梅若丸の身の哀れを思い、ここに塚を築き柳を植えた。これが隅田山梅若山王権現と呼ばれる梅若塚である。

一方、我が子の行方を尋ねてこの地にたどり着いた梅若丸の母「花子の前」は、たまたま梅若丸の一周忌の法要に会い、我が子の死を知り、出家してしまった。名を妙亀（みょうき）と改め、庵をかまえて梅若丸の霊をなぐさめていたが、ついに世をはかんで近くの浅芽が原の池（鏡が池）に身投げしてしまったという。これが、有名な謡曲「隅田川」から発展した梅若伝説であるが、この梅若丸の悲しい生涯と、妙亀尼の哀れな運命を知った満蔵寺開山の祐閑和尚は、木像を彫ってその胎内に梅若丸の携えていた母の形見の守り本尊を納め、お堂を建てて安置したという。これが、安産、疱瘡の守護として多くの信仰を集めてきた子育て地蔵尊（満蔵寺内）である。

昭和六十一年三月

埼玉県

春日部市

補説

寛延二年（一七四九）作成の「葛飾紀」には、新方領の古隅田川の地（春日部市）が梅若伝説の発祥地で、隅田川の木母寺（「木母」は、木と母からなる「梅」という字から由来する）の方は新方領の古隅田川の地の言い伝えを移したものである。

なお、古隅田川のもう一方の伝承として、「伊勢物語」の在原業平の東下り（あずまくたり）に関連した、在原業平の名前に由来して名付けられた「業平橋」（県道大宮春日部線、豊春小学校そばの古隅田川に架かる橋）や春日部市内の八幡神社に嘉永六年（一八五三）に建てられた「名にしおはばいづ言問はむ都鳥わが思ふひとはありやなしやと」の「都鳥の碑」がある。（加藤）